

蒲都市立蒲郡東部小学校 いじめ防止基本方針

1 いじめの防止についての基本的な考え方

いじめは、いじめられた児童の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為である。また、どの児童も被害者にも加害者にもなりうる。これらの基本的な考えを基に教職員が日頃からささいな兆候を見逃さないように努めるとともに、**学校全体で組織的に対応**していく。

蒲郡東部小学校では、校訓「事に魂をこめよ」を実現できるように、あたたかく（徳）、たくましく（体）、かしこく（知）、未来を心豊かに生きる「とがみつ子」の育成に尽力している。児童一人一人が大切にされているという実感をもたせるとともに、互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身につけさせることができる学校づくりに取り組んでいく。そうした中で、児童が自己肯定感や自己有用感を育み、仲間と共に人間的に成長できる魅力ある学校づくりを進める。

※けんかやふざけ合いであっても、児童の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断する。

2 いじめ防止対策組織

「いじめ・不登校対策委員会」を全職員（必要に応じて、スクールカウンセラー等を加える）で構成し、一か月に一度、開催する。いじめのささいな兆候や懸念、児童からの訴えを、特定の教員が抱え込むことのないよう、組織として対応する。

緊急性のある場合は、校長、教頭、教務主任、校務主任、学年主任、養護教諭、該当担任等で構成した運営委員会、または校長、教頭、教務主任、校務主任、該当学年で構成した企画委員会で、すみやかに対応する。

(1) 「いじめ防止対策組織」の役割

ア 「学校いじめ防止基本方針」に基づく取り組みの実施と進捗状況の確認

- ・学校評価アンケートを行い、学校におけるいじめ防止対策の検証を行い、改善策を検討していく。

イ 教職員への共通理解と意識啓発

- ・年度初めの職員会議で「学校いじめ防止基本方針」の周知を図り、教職員の共通理解を図る。
- ・いじめアンケートや教育相談の結果の集約、分析、対策の検討を行い、実効あるいじめ防止対策に努める。

ウ 児童や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発

- ・随時、学校だよりやホームページ等を通して、いじめ防止の取り組み状況や学校評価結果等を発信する。

エ いじめに対する措置（いじめ事案への対応）

- ・いじめがあった場合、あるいはいじめの疑いがあるとの情報があった場合は、正確な事実の把握に努め、問題の解消にむけた指導・支援体制を組織する。
- ・事案への対応については、適切なメンバー構成を検討し、迅速かつ効果的に対応する。また、必要に応じて、外部の専門家、関係機関と連携して対応する。
- ・問題が解消したと判断した場合も、その後の児童の様子を見守り、継続的な指導・

支援を行う。

※問題の解消とは、以下の2点が満たされる状態である。

・被害者に対する心理的・物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む）が少なくとも3か月は止んでいる状態。

・被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないかを、被害児童生徒と保護者の双方と面談し、確認する。

3 いじめの防止等に関する具体的な取り組み

(1) いじめの未然防止の取り組み

ア 児童同士の関わりを大切にし、互いに認め合い、共に成長していく学級づくりを進める。

イ 児童の活動や努力を認め、自己肯定感を育む授業づくりに努める。

ウ 教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育の充実を図るとともに、体験活動を推進し、命の大切さ、相手を思いやる心の醸成を図る。

エ 情報モラル教育を推進し、児童がネットの正しい利用とマナーについての理解を深め、ネットいじめの加害者、被害者とならないよう継続的に指導する。

(2) いじめの早期発見の取り組み

ア いじめアンケートや教育相談を定期的実施（年2回）し、児童の小さなサインを見逃さないように努める。

イ 教師と児童との温かい人間関係づくりや、保護者との信頼関係づくりに努め、いじめ等について相談しやすい環境を整える。

ウ いじめ相談電話等、外部の相談機関を紹介し、児童が相談しやすい環境を整える。

(3) いじめに対する措置

ア いじめの発見・通報を受けたら「いじめ・不登校対策委員会」を中心に組織的に対応する。

イ 被害児童を守り通すという姿勢で対応する。

ウ 加害児童には教育的配慮のもと、毅然とした姿勢で指導や支援を行う。

エ 教職員の共通理解、保護者の協力、スクールカウンセラーやソーシャルワーカー等の専門家や、警察署、児童相談所等の関係機関との連携のもとで取り組む。

オ いじめが起きた集団へのはたらきかけを行い、いじめを見過ごさない、生み出さない集団づくりを行う。

カ ネット上のいじめへの対応については、必要に応じて警察署や法務局等とも連携して行う。

キ 特に配慮が必要な児童に係るいじめについては、当該児童の特性を踏まえ、日常的に適切な支援を行うとともに保護者との連携、周囲の児童に対する必要な指導を組織的に行う。

4 重大事態への対応

(1) 重大事態が生じた場合は、速やかに教育委員会に報告をし、「重大事態対応フロー図」に基づいて対応する。

(2) 学校が事実に関する調査を実施する場合は、「いじめ・不登校対策委員会」を開催し、

事案に応じて適切な専門家を加えるなどして対応する。

(3) 調査結果については、被害児童、保護者に対して適切に情報を提供する。

5 学校の取り組みに対する検証・見直し

(1) 学校いじめ防止基本方針をはじめとするいじめ防止の取り組みについては、PDC Aサイクル（PLAN→DO→CHECK→ACTION）で見直し、実効性のある取り組みとなるよう、努める。

(2) いじめに関する項目を盛り込んだ教職員による取り組み評価及び保護者へのいじめアンケート（6月の生活アンケート、学校評価アンケート）を実施し、いじめ・不登校対策委員会でいじめに関する取り組みの検証を行う。

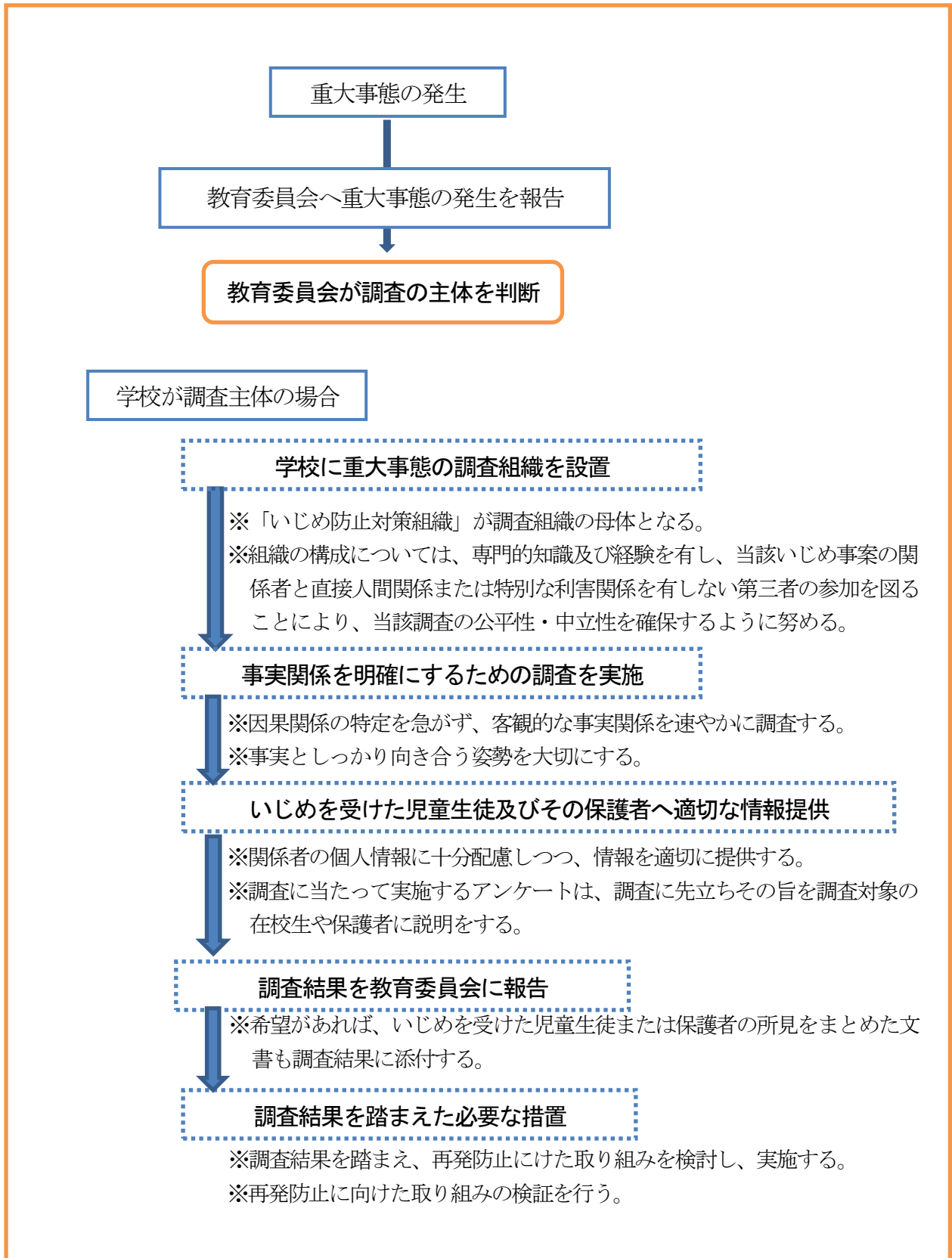
6 その他

(1) いじめ防止に関する校内研修を年2回計画し、児童理解やいじめ対応に関する教職員の資質向上に努める。

(2) 「学校いじめ基本方針」は4月に保護者へ配付し、ホームページにも掲載する。

(3) 長期休業中の事前・事後指導を行い、休業中のいじめ防止に取り組む。

【重大事態の対応フロー図】



＜蒲郡東部小学校 年間計画＞

	いじめ・不登校対策委員会	未然防止の取り組み	早期発見の取り組み	保護者・地域との連携
4月	P ↓	○「学校いじめ基本方針」の内容の確認	○相談室やSCの児童、保護者への周知 ○学級開き、学年開き ○保健指導（心と体の成長）	○PTA総会、学級懇談会での「学校いじめ基本方針」の説明
5月		D	○運動会	○蒲中校区四校連絡会の開催→情報交換 ○PTA役員・委員全体会の開催→情報交換
6月		↓	○情報モラル指導（ネットモラル）	○「いじめアンケート」の実施 ○教育相談週間 ○学校保健委員会 ○PTA役員・委員全体会の開催→情報交換
7月	C ↓	○全教職員による「いじめアンケート」の実施→検証	○部活動激励会	○球技指導会
8月	A ↓	○中間評価→検証 ○現職研修②（ケーススタディ）		○PTA役員・委員全体会の開催→情報交換
9月	P ↓		○5年 自然教室	○「とがみっ子祭り」（異年齢集団活動）
10月	D ↓		○修学旅行	○学校保健委員会 ○PTA常任委員会の開催→情報交換
11月	↓		○赤い羽根募金活動 ○学芸会	○資源回収
12月	↓		○人権週間（講話） ○マラソン大会	○PTA役員・委員全体会の開催→情報交換
1月	C ↓	○全職員による「取り組み評価アンケート」の実施→検証	○保健指導（命の大切さ） ○SCによる心の授業	○身体測定 ○「いじめアンケート」の実施 ○教育相談週間
2月	A ↓	○自己評価	○感謝の会	○蒲中校区四校連絡会の開催→情報交換
3月	↓	○学校評議員の評価結果を検証し、「基本方針」の見直し	○卒業生を送る会	○PTA役員・委員全体会の開催→情報交換
通年	P へ	○いじめに関する情報の収集・対応策の検討（月に1回）	○集会における校長講話 ○道徳教育、体験活動の充実 ○分かる授業の充実	○健康観察の実施 ○SCによる相談 ○生活日記

※いじめが発生した場合の対応については、運営委員会・企画委員会など関係する職員で共通理解を図りながら、すみやかに対応していく。